

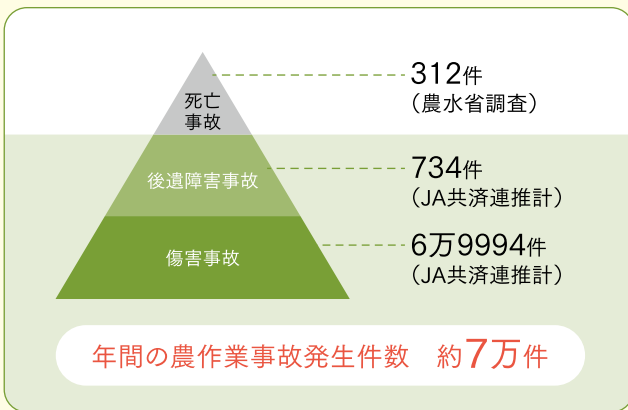


# 明日も農業をつづけるために。

これまでJA共済連が農家組合員の方々への保障提供を通じて蓄積してきた大量の共済金支払データを分析することで、今までは見えていなかった農作業事故の実態が明らかになってきました。農作業の安全について、いま一度考えてみるとともに、万一に備えて共済の加入も検討してみましょう。

協力: 全国共済農業協同組合連合会 (JA共済連) <https://www.ja-kyosai.or.jp>

図表1 農作業事故の全体像



図表2 農作業の特性と事故の関係

| 農作業の主な特性 |                  | データの検証結果  | まとめ          |
|----------|------------------|---|--------------|
| ① 環境     | 斜面、高所作業が多い       | 「転倒(同一平面)」「墜落」が事故全体の過半数を占める                         | 事故が起こりやすい    |
|          | 狭く暗い施設、炎天下が多い    | ・施設事故は約2割を占める<br>・発生時期は7~9月で約3割を占める                 |              |
| ② 物      | さまざまな機械、用具、家畜を扱う | 機械、用具、生物だけで約5割を占める<br><br>機械、用具、家畜の事故の重症度は他の事故よりも高い | 重大事故につながりやすい |
|          | 高齢者が多い           | 高齢なほど重症度が高い   |              |
| ③ 人      | ひとりでの作業が多い       | 事故後すぐに発見されないケースが散見される                               |              |

死亡以外のけがも含めた農作業事故の全体については、統計データの不足からこれまで明らかにされていませんでした。JA共済連では大量の共済金支払データを分析することで、後遺障害事故は死亡事故の約2倍、傷害事故は死亡事故の約2.4倍起きていることを確認しました。この倍率を農林水産省の死亡事故調査(2016年)の312件に掛けることで、農作業事故が年間約7万件発生しているものと推計しています(図表1)。

氷山の一角だった死亡事故  
年間約7万件の事故が発生

なぜ農作業事故がこれほど多いのでしょうか。事故には、場所や天候といった「環境」、農機具や生物などの「物」、作業者である「人」という三つの因子があります。それぞれの因子について、農業ならではの特性があり、三つの要因が積み重なることにより、「事故の起こりやすさ」や「重大事故へのつながりやすさ」が大きくなってしまっている(図表2)。

なぜ農作業事故が起こるのか

